狼谷溜池
（おおかみだにためいけ）

水落とし↑

百日紅↓

ため池の概要

□ため池の所在地
鳥取県倉吉市

□ため池の特徴
狼谷溜池は、国立公園「大山」の東すそ野にある天神野台地の開拓田を潤すため、大正11年から13年にかけて造成されました。
戦後、食糧増産のため貯水量132万ﾄﾝの大規模なため池に拡大され、現在も水田150haのかんがい用水として使用されています。

澄み切った青空の下池面に逆さに映る秀峰「大山」の姿は格別に美しく、いつしか「大山池」と呼ばれ、鳥取県から、因伯の名水「ふれあいの水辺」として指定してされています。
冬場には、無数の渡り鳥が静かな池面に羽を休め、飛来地として重要な役割を果たしています。また、地域に生息する「鱒（ます）」の休息・産卵を行うなど生態系ネットワークの要ともなっています。

晩秋の落水時には、放流していた鯉、鮒などを人々が大勢で泥まみれになって手づかみで取り合うのが恒例行事となっており、都市住民も参加して交流も行われています。

ため池への注水路の落差を利用して小電力発電所が設置されており、天神野開拓の歴史やため池の施設と共に、地元小中学生の貴重な学習教材として活用されています。また、消防活動の水源としても利用できるよう消防署と契約が取り交わされており、溜池は地域で多様な役割を担っています。

関連情報
鳥取県ホームページ
http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/336476/daisenike.pdf